

A区分・C区分共通

No.1 (実演芸術・メディア芸術 共通)

令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

別添	あり
----	----

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	メディア芸術	種目	映像
----	--------	----	----

応募区分(応募する区分を選択してください。)

応募区分	C区分
------	-----

複数応募の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、応募企画数から除く

複数応募の有無	有	応募総企画数	3企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しなければ、複数の企画を実施可能
--------------------	----------------------------

文化芸術団体の概要

ふりがな 制作団体名	いっばんしゃだんほうじんこどもえいがきょうしつ 一般社団法人こども映画教室	団体ウェブサイトURL	https://www.kodomoeiga.com
代表者職・氏名	代表理事 土肥悦子		
制作団体所在地	〒 150-0036 最寄り駅(バス停) 渋谷駅 東京都渋谷区南平台町4-13 南平台ハイツ2F		
電話番号	050-3188-1549		
ふりがな 公演団体名	こどもえいがきょうしつ こども映画教室	団体ウェブサイトURL	https://www.kodomoeiga.com
代表者職・氏名	代表理事 土肥悦子		
公演団体所在地	〒 150-0036 最寄り駅(バス停) 渋谷駅 東京都渋谷区南平台町4-13 南平台ハイツ2F		
制作団体 設立年月	2013年4月(2019年1月一般社団法人化)		
制作団体組織	役員	団体構成員及び加入条件等	
	土肥悦子(代表理事) 諏訪敦彦(専務理事) 藤岡朝子(理事)・原悟(理事) 林知一(理事)	団体社員:土肥悦子・諏訪敦彦 従業員(事務局):浅見孟 団体社員加入条件 社員総会での協議の上、加入	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者置く	本事業担当者名	浅見孟
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理責任者名	土肥悦子
本応募にかかる連絡先 (メールアドレス)	kaikei.kodomoeiga@gmail.com		

制作団体沿革・ 主な受賞歴	<p>2004年 金沢コミュニティシネマが主催(金沢21世紀美術館共同主催)として、前身となる「こども映画教室」を石川県金沢市が拠点として開催(以降毎年開催)</p> <p>2013年 任意団体「こども映画教室」として、東京都を拠点に活動開始。活動地域が全国に広がる。</p> <p>2015年 上映会およびシンポジウム「こどもが映画と出会うとき」を主催(以降毎年開催)</p> <p>2017年 フランスのシネマテーク・フランセーズが主催する教育プログラム「Le Cinéma, cent ans de jeunesse(映画、100歳の青春)」に、世界で15カ国目の参加国、そして日本初のコーディネーターとして参加。</p> <p>2019年～ 「一般社団法人こども映画教室」として法人化。 文化庁「文化芸術による子供育成総合事業―巡回公演事業―」受託</p> <p>2023年～ 東京国際映画祭主催「映画教育国際シンポジウム2023」企画運営</p>		
学校等における 公演実績	<p>小中高生向け映画ワークショップ実施実績 累計 約200回</p> <p>2019年より巡回公演・文化施設等活用事業等での実施実績あり 累計 49校</p> <p>詳細は【別添シート】(1)参照</p>		
特別支援学校等における 公演実績	<p>「令和元年度文化芸術による子供育成総合事業―巡回公演―」にて特別支援学級の児童と普通学級の児童混合でワークショップをおこない、その後も毎年の巡回公演において、そのように普通学級との混合で実施している。特に学校から「いつも登校できなかつたり、学級に入れない子がこの公演では一緒に楽しむことができた、と報告をいただいた。</p>		
参考資料の有無	申請する演目のWEB公開資料	<p>有</p>	
	※公開資料有の場合URL	<p>https://youtu.be/4SGzb7CRDvo</p>	
	※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	ID:	<p>なし</p>
		PW:	<p>なし</p>

<p>指導体制</p>	<p>映画監督(特別講師)※1: 萩生田宏治、前田哲、深田隆之、瀬田なつき、大川景子、五十嵐耕平、山本英、太田達成、高橋壮太 エグゼクティブプロデューサー: 土肥悦子 映画制作チームリーダー: 奥定正掌、飯岡幸子、西原孝至、糠塚まりや、小林和貴、藤田開、加藤紗希、蘇鉦淳、川崎たろう、大井里花子 メイキング動画撮影監督: 山本大輔 メイキングスチール撮影監督: 中村隆一 チーフテクニカルマネージャー: 酒井貴史 テクニカルマネージャー: 相馬航佑 プロデューサー: 浅見孟 プログラム監修: 諏訪敦彦(映画監督・東京藝術大学大学院教授) ※1 巡回スケジュールにより1名を派遣</p>				
<p>演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名</p>	<p>萩生田宏治監督: 監督作『楽園』(00、トロント国際映画祭、釜山国際映画祭招待作)、『帰郷』(04)、『神童』(06)等 前田哲監督: 監督作『ブタがいた教室』(08、東京国際映画祭 観客賞・審査員賞)、『そして、バトンは渡された』(21、報知映画賞 監督賞)、『九十歳。何がめでたい』(24) 深田隆之監督: 監督作『ある感星の散文』(18、ベルフォール国際映画祭正式招待)、『ナナメのろうか』(22、サン・セバスティアン国際映画祭正式招待)等</p>				
<p>従事予定者数 (1回あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む</p>	<p>17名</p>	<p>運搬</p>	<p>ハイエース 積載量: 1 t 車長: 4.265 m 台数: 3 台</p>		
<p>実施にあたっての会場条件および学校側が必要な準備等</p> <p>※採択決定後、採択団体へ学校側に提示する条件の確認書の作成をお願いします。</p>	<p>【ワークショップ】 会場: 体育館にこちらで用意した持ち込みスクリーンなど上映・音響機材を設置し、映像を鑑賞できる環境、かつ参加する子どもたちが座れるスペースが確保できること。 また、日中でもカーテン、暗幕などで会場が暗くできること。 準備物: 椅子(子どもが座席に座る場合、地べたでも可) 搬入車両およびスタッフ移動車両を停める駐車場</p>		<p>【メインプログラム】 会場: 体育館、視聴覚室等、常設スクリーンまたはこちらで用意した持ち込みスクリーンなど上映・音響機材を設置し、映像を鑑賞できる環境、かつ参加する子どもたちが座れるスペース、撮影してもいいスペースが確保できること。 また、日中でもカーテン、暗幕などで会場が暗くできること。 準備物: 搬入車両およびスタッフ移動車両を停める駐車場</p>		
<p>当日の所要時間 (タイムスケジュール)の目安</p>	<p>【ワークショップ】 前日(準備: 1.5~2時間) 15:00 学校到着&先生方と打ち合わせ 上映会場暗幕設置などの設営 上映リハーサル 1日目 8:40 ワークショップ1回目(60分 ※休憩含む) ※全体の流れ①~③ 9:40 休憩(10分) → メインプログラムへ メインプログラム後、午後の開始時間は学校と相談の上、決定 13:00 ワークショップ2回目(45分~90分) ※学校規模により調整 ※全体の流れ⑥⑦ 13:45 終了(45分の場合) / 14:30 終了(90分の場合) ~17:00 上映機材搬出</p>		<p>【メインプログラム】 1日目(ワークショップ1回目の後) 9:40 メインプログラム開始(140分 休憩含む) ※全体の流れ④⑤ 12:00 メインプログラム終了</p>		
<p>本公演 実施可能日数目安</p> <p>※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)</p>	<p>6月</p>	<p>7月</p>	<p>8月</p>	<p>9月</p>	
	<p>13日</p>	<p>14日</p>	<p>5日</p>	<p>18日</p>	
	<p>10月</p>	<p>11月</p>	<p>12月</p>	<p>1月</p>	
	<p>16日</p>	<p>14日</p>	<p>20日</p>		
	<p>※平日の実施可能日数目安をご記載ください。</p>			<p>計</p>	<p>100日</p>

こども映画教室®
 映画鑑賞 + 映画制作ワークショップ
 「みんなで協力して映画を撮ろう！」

**ワークショップ含む
公演所要時間**
1～5 時間目
(合計5コマ)

上映作品
パンと裏通り

対象学年
小学生～中学生
生徒・児童数
最大100名
を想定

※通常、前日放課後に設置
※学校規模により
6コマになる場合
がございます

※デジタル上映

※映画鑑賞は定員なし



こちらで用意した
スクリーンでの映画上映



体育館の窓にカーテン等が
無い場合はご相談ください



プロジェクターを
体育館後方に設置し上映



ワークシートを使用した
鑑賞ワークショップ



映画制作用の iPad は
当団体に用意します



iPad を使用した
映画撮影の様子



5人1チームに分かれて
赤いボールを主人公にした
『赤いボールの冒険』を制作



iPad を使用した
映画編集の様子



こどもたちの作品を上映
映画監督と対話をしながら舞台挨拶

企画に係るビジュアル
イメージ
(舞台の規模や演出が
わかる写真)

※採択決定後、図
面等の提出をお願い
します。

著作権、上演権利等 の 許諾状況	各種上演権、使用 権等の許諾手続き の要否	該当あり	該当コンテンツ名	『パンと裏通り』
	該当事項がある 場合	権利者名	株式会社チャイルド・フィルム	許諾確認状況

※A4判6枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
本事業への応募理由	【公演団体名 こども映画教室 】
<p>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</p>	<p>①本事業に対する取り組み姿勢 こどもたちに対して、映画に関するワークショップを専門的に実施している団体として、学校教育の中で、“映画芸術の本質と出会う”体験をしてもらい、普段体験することのできない名作の鑑賞や映画撮影を学校教育の中で体験してもらおう。 この巡回公演によって、こどもたちの発想力やコミュニケーション能力が育成され、将来の映画人の育成や、映画鑑賞能力の向上を目的とし、取り組む。</p> <p>具体的には、映像制作のプロであるだけでなく、すでに小学生、中学生たちとともに映画制作や映画鑑賞のワークショップをして、ファシリテーションについても知識や技術のあるスタッフとこどもたちが出会うこと自体がこどもたちにとって、深い体験となる(本気の大人に出会う)。</p> <p>また、こども映画教室では、大人が指導するのではなく、こどもたちの自主性を尊重し、こどもたちがみずからお話を考え、撮影、出演し、編集もすることを大事にしている。映画、という敷居の低い芸術に出会うとき、こどもたちはワクワクととても楽しそうに自発的に動き考え、友だちとコミュニケーションを図っていく。そうして、映画ができるころには自分に自信が付き、コミュニケーション能力も高まっているのである。</p> <p>こども映画教室は、これまで、映画祭(東京国際映画祭、高崎映画祭など)や、大学(早稲田大学、東京藝術大学など)、フィルムコミッション(信州上田フィルムコミッション)、各地のアート系映画館(シネマ尾道、シネモンド、シネマテークたかさき、福井外口劇場、深谷シネマなど)など、映画や教育の関連団体との共催事業をしてきたが、そこでは映画に関心のある家庭のこどもたちが多く、あまり映画や芸術に関心のないこどもたちやそういった家庭のこどもたちは応募してこなかった。 しかし、自己肯定感を持ちにくい今の時代、どんなこどもにも映画制作や映画鑑賞の体験をしてほしいと思っていたため、本事業は、公教育での実施が可能であり、とても素晴らしい機会だと思い、申請した。</p> <p>2019年度より同じプログラムが採択され、小学校で実施してみて、児童からのアンケート結果や、メイキング映像などからも、本プログラムをととても楽しんでくれたことがうかがえる。また、初年度からの経験で、よりスタッフを増やすべきであることや、ワークを細分化する必要性などを感じ、上映作品も含めてプログラムをアップデートした。</p> <p>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫 実施校とは、密に連絡を取り合い、学校側の希望に合わせて、必要な準備工程、スケジュールを確認し合いながら事業準備を図る。 メインプログラムやワークショップの内容についても、実施校の施設状況や受け入れ体制に合わせ、実施校と相談し構成をする。なるべく臨機応変に学校側の希望に沿うようにしていくことが可能。</p>

別添	なし
C区分で事業を実施するに当たっての工夫 【公演団体名 こども映画教室】	
C区分で事業を実施するに当たっての工夫	<p>① 離島・へき地等における公演実績</p> <p>2019年度 須崎市立新荘小学校(高知) 宿毛市立橋上小学校(高知) 西条市立三芳小学校(愛媛) 今治市立鴨部小学校(愛媛) 美馬市立江原北小学校(徳島) 砥部町立広田小学校(愛媛)</p> <p>2020年度 大島町立さくら小学校(東京・離島) ※創出事業 桜井市立初瀬小学校(奈良)</p> <p>2021年度 神津島村立神津中学校(東京・離島) いすみ市立浪花小学校(千葉)</p> <p>2022年度 今治市立吉海小学校(愛媛・離島) 雲南市立海潮中学校(島根) 佐世保市立三川内中学校(長崎) 五條市立北宇智小学校(奈良) 別府市立南立石小学校(大分) 鳥取市立青谷中学校(鳥取)</p> <p>2023年度 玉野市立玉原小学校(岡山) 新見市立本郷小学校(岡山) 今治市立宮窪小学校(愛媛・離島) 福山市立竹尋小学校(広島) 潮来市立牛堀中学校(茨城)</p> <p>2024年度 吉備中央町立大和小学校(岡山)</p> <p>② 離島やへき地等の地理的に特殊な事情がある地域で実施する上での工夫や、小規模な公演であっても公演及びワークショップの質を保つための工夫 離島・へき地での本事業開催の場合は、実施前後の週末に自主公演等のスケジュールを入れずに対応する。そのことにより、天候不順や天災による公共交通機関の運休等でも本事業や他事業に影響なく離島やへき地に滞在できるように対応する。</p> <p>A区分では大人数での鑑賞だが、C区分は参加する人数が少ないため、少人数に分けてワークショップをする工夫をした。各チームに映画の専門家によるファシリテーションが入ることで、より深く映画を知り、感じ、考えることができる。</p> <p>A区分では大人数での鑑賞のため、明るさを重視した上映機材を必要とするために上映は外注したが、C区分では近隣に上映業者がない場合が多いこともあり、また上映規模がさほど大きくないことから、スタッフで対応することにした。とはいえ、前日入りの設営が必要となる。</p> <p>【実施体制】 C区分では撮影を外でやることを前提としているため、安全面を考慮し、スタッフの数を決めている。またこどもの見守り役として、学校の先生や保護者へのご協力をお願いしている。</p> <p>③ C区分応募における、小規模な公演の観点から実施する経費削減等についての工夫 小学校のスケジュールが許す限り、一校につき「ワークショップ+メインプログラム+ワークショップ」を1日で行い、巡回による都内から現地までの移動回数、滞在期間をなるべく減らし実施します。</p> <p>機材と人を一緒に運ぶことで移動をコンパクトにしている。 そのためにバン等をレンタルし、スタッフが運転手も兼ねている。</p>

別添 ※別添は1企画につき3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先	No.1	【公演団体名	こども映画教室 】
学校等における 公演実績	小中高生向け映画ワークショップ実施実績 累計 約200回 2019年より巡回公演等での実施実績あり 累計 48校		
	2013年	横浜市教育委員会後援、東京藝術大学大学院映像研究科協力のもと 「こども映画教室@ヨコハマ2014」実施(2014年、2015年、2016年も実施)	
	2014年	世田谷区奥沢小学校 奥沢体験楽校にて「映画のおもちゃをつくろう！」(課外活動)開催	
	2015年	横浜市立新田小学校「こども映画教室@新田小学校」を(総合の時間・国語などの授業 で)開催	
		「全国映連第44回 映画大学in今治」にて「映画館と街、子どもと映画」講義・登壇	
	2016年	6～10月 お茶の水女子大学付属小学校 選択授業にて 選択授業「映画」実施	
	2017年～	フランスの国際的映画教育プログラム”Le Cinéma, cent ans de jeunesse(映画100年の 青春)”のオフィシャルパートナーとして、同プログラムを日本にて実施 東京国際映画祭主催・東京都共催「TIFFティーンズ映画教室」を企画運営	
	2018年～	”Le Cinéma, cent ans de jeunesse”のパリでの上映会”A nous le cinéma!(映画を我ら に!)”に参加。映画教育に携わる15カ国以上の学校教育者と交流。 ※2020年、2021年は新型コロナウイルス感染症蔓延のため中止(2022年再開)	
	2019年	平成30年度国際交流基金海外派遣助成事業として 「こども映画教室(映画教室)南米・米国 公演・デモンストレーション」実施 チリのチリ大学において、「映画は学校だ! 映画教育に関する国際シンポジウム」に て講演(諏訪敦彦、土肥悦子)	
		文化庁「令和元年度文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演—実施 【実施校】C区分:小学校6校 独立映画鍋主催「映画教育のススメ～教育における映画の可能性～」 に参加(中学生たち含む)	
	2020年	文化庁「令和2年度文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演—」実施 【実施校】C区分:小学校1校 文化庁「令和2年度子供のための文化芸術体験機会の創出事業」実施 【実施校】小学校6校	
	2021年	文化庁「令和3年度文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演—」実施 【実施校】C区分:小学校3校 文化庁「令和2年度第3次補正予算事業子供のための文化芸術鑑賞体験支援事業」実施 【実施校】小学校3校	
2022年	文化庁「令和4年度文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演—」実施 【実施校】C区分:小学校6校 中学校1校 A区分:小学校4校 中学校1校 文化庁「令和3年度 補正予算事業 子供のための文化芸術鑑賞・体験再興事業」実施 【実施校】小学校2校		
2023年	日本芸術文化振興会「令和5年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)」 【実施校】C区分:小学校4校 中学校1校 A区分:小学校9校 中学校1校		

別添 ※別添は1企画につき3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先	No.2	【公演団体名	こども映画教室	】
企画のねらい	<p>①主体的な観客を育てる 映画はつくっただけでは完成しない。人が観て初めて完成する。 だからこそ、時代を超えて人々に愛される映画が名画とされる。同じ映画を観ても、観たときの年齢や状況によって感じ方が違うことがあるのも、映画が各人の脳(心)のなかでその人の経験や記憶を呼び覚ましていくからだろう。 そのように“映画を観ている「私」”を感じ、映画に対して「私なりの考えを持つこと」や「自分なりにその映画をうけとり、自分たちの頭の中で映画を作り出す」ということは普段あまり意識されない。そのような鑑賞は観る側にも鑑賞能力を必要とするからだ。 そこで、国民の多角的な芸術鑑賞能力の向上のためには、このような、映画鑑賞における“主体的な観客”である姿勢をこどものころから大事にし、それを楽しく体験できる機会が必要である。</p> <p>②発想力の育成や芸術鑑賞能力の向上 また、鑑賞のみではなく、映画制作を体験することで、カメラの存在(アングルやサイズ、フィックス撮影、手持ち撮影、移動撮影など)や被写体の動き、演技などに気づくことができる。 こうしたこどもたちの発想力の育成や芸術鑑賞能力の向上を目指して本企画を実施する。</p> <p>③名作鑑賞による地域交流 ワークショップ1回目は、短編映画『パンと裏通り』を鑑賞する。学校の体育館を真っ暗にして、みんなでカウントダウンし、体育館を映画館に変える。映画館が街中からなくなっている今、地域の学校の体育館で名作を鑑賞することで、地域の大人も含めて多くの人に鑑賞体験してもらいたい。</p> <p>④映画を深く味わう 鑑賞後のワークショップでは、『パンと裏通り』の内容を振り返り、作品を深く味わう。最後に、主人公の気持ちを想像してもらい、同じシーンでも見る人によって主人公の気持ちは違って見える。なぜなら主人公の気持ちがわかったのは、「あなた」がそう考えた、感じたからであることを伝える(主体的な観客)。</p> <p>⑤映画ごっこではなく本当のクリエイションを目指す メインプログラムでは、赤いボールに主人公を変え、生きていないボールを生き生きと映画の中で見せるにはどうしたらいいのかをこどもたちに考えてもらい、実際にそれをiPadで撮影する。いくつかのワークを事前にやることで、こどもたちは自主的にチーム内でコミュニケーションを図り始める。ボールの気持ちをどうしたら表現できるのか、仲間と悩み工夫し、協力し実際に手を動かしながら映画を内側から体験する。最後に自分たちで編集をして各チーム1分以内の映画に仕上げる。</p> <p>⑥映画づくりには正解がないことを伝える ワークショップ2回目では、メインプログラムで撮影したものを1本につなげて、それを鑑賞する。他のチームの作品のボールの気持ちを想像して発言し、次に作った側もどんな気持ちを表現しようとしたか、どんな工夫をしたのかを発表する。これによりつくった側とみた側の違いがわかる。そこで答え合わせにならないように、どう受け取ってもいいのだということをしっかりと伝える。映画鑑賞も映画制作もどこにも正解がないこと、自由な解釈ができることを伝える。</p> <p>プログラム全体を通して伝えていきたいのが、リラックスして自由な発想をすることが大切であること。クリエイティブであるためには心を開放し、楽しさを感じながら映画を観たり作ったりしていくことを伝える。こどもたちは自分なりの映画の観方を自由に発表し、自分たちの手で作り上げた作品を観てもらうことで“主体的に”映画を楽しみ、自分の観たいように観てもいい、作りたいように作っていい、という体験を通して、自己肯定感が育まれることもこの企画のねらいである。</p>			

別添 ※別添は1企画につき3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先	No.2	【公演団体名	こども映画教室	】
プログラム全体の流れ	<p>【全体の流れ】 1日目 午前</p> <p>【ワークショップ1回目】(60分 ※休憩含む)</p> <p>① 導入・講師紹介・今日すること(4分)</p> <p>② 「映画鑑賞」:鑑賞作品『パンと裏通り』上映(11分/1970年/イラン映画)</p> <p>③ 鑑賞ワークショップ 「映画の中の登場人物の気持ちを想像してみよう」(45分)</p> <p>1) 5人のチームに分かれて映画に登場した人物、場所、出来事を思い出し、付箋に書き出す</p> <p>2) 登場人物がどんな気持ちだったのか、赤い丸型のカードに書き込み、映画の世界をあらわしたワークシートに貼る</p> <p>3) ワークシートに、さきほどの人物、場所、出来事の付箋を貼る</p> <p>4) 他のチームのワークシートを鑑賞して、人との違いを発見する</p> <p>休憩10分</p> <p>【メインプログラム/本公演】(140分 ※休憩含む)</p> <p>④ 撮影ワークショップ(90分) 『赤いボールの冒険』という映画を撮ってみよう</p> <p>1チーム5名に分かれ、1チームにつき1分の映画を撮影し、最後にそれを1本の映画にするプログラム</p> <p>1) 鑑賞ワークで書いた丸型のカードの中から、各チーム1枚を選ぶ</p> <p>2) そのカードに書かれた「気持ち」が『赤いボールの冒険』というこどもたちが作る映画のなかの主人公赤いボールの気持ちとなる。</p> <p>3) 『赤いボールの冒険』ルールブックの説明(撮影の基本的な約束事)</p> <p>4) 各チームに赤いボールとiPadが配られる</p> <p>5) 各チームに配布されたミッションカードを全員が引き、そこに書かれたミッションを実行(クローズアップ、移動撮影、パン、などの撮影方法が自然とできるようなミッションになっている)</p> <p>6) 「秘伝の書」を使って、いわゆる「シナリオ」を書く。</p> <p>7) チームごとに決めた「赤いボールの気持ち」が映るように、工夫して撮影</p> <p>休憩(10分)</p> <p>⑤ 編集ワークショップ(40分) 「みんなで撮った映像を1分に編集してみよう」</p> <p>1) iPadに入れた編集ソフトの操作方法を教える</p> <p>2) こどもたちが自分たちで編集をする</p> <p>※ワークショップ2回目までにこども映画教室スタッフがこどもたちの作品を1本に編集。『赤いボールの冒険』ができあがる</p>			
	<p>1日目 午後</p> <p>【ワークショップ2回目】(45分) 学校の児童・生徒数によりチーム数が違うので学校と相談の上、調整(最大90分)</p> <p>⑥ 発表会「みんなの作品をつなげて1本になった映画をみてみよう」</p> <p>1) 各チームの作品を再上映し、赤いボールの気持ちがどんな風に映っていたか、他のチームの人たちが感想を言う</p> <p>2) 作ったチームの人が撮影や編集で工夫したところや赤いボールの気持ちをどのように表現しようとしたのか伝える</p> <p>3) 特別講師(映画監督など)からの講評</p> <p>⑦ 記念撮影</p>			